

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた雫石町の取組（概要）

2018～
（～大会直前）

●2018年

1. ドイツへの感謝の気持ちと復興状況を発信する
ポスターの制作（地元中高生6名）

- ◎ポスター制作講座の開催（全5回 5～9月）
- ◎ドイツ訪問団、山田町との交流（5/26）
- ◎ポスター完成（11月頃）
- ◎町民向け発表会の開催（12月頃）
- ◎ホストタウンサミットでの事例発表（予定）
- ※講師は、（合）アースボイスプロジェクト代表社員の榎田 竜路氏（東京オリパラ大会組織委員会 経済・テクノロジー専門委員、内閣府地域活性伝道師）

2. ハインリッヒ・ポポフ選手講演会

- ◎10月24日（水）午後2時から雫石町中央公民館野菊ホールで、ハインリッヒ・ポポフ選手（ドイツ・2016リオパラリンピック陸上競技男子走り幅跳びの金メダリスト）の講演会を開催。

3. 経済界協議会との連携による事業展開

- ◎東京オリンピック・パラリンピック等経済界協議会から本町の担当となったトヨタ自動車(株)と連携し、大会気運醸成に向けた取り組みを展開。
 - ・8月11日 ボッチャ体験会（雫石よしゃれ祭り時）
 - ・8月26日 同社硬式野球部員による野球教室
- ※12月に開催予定の町体育協会主催「スポーツ人の集い（講演会）」での講師派遣の他、異文化教室等の事業を次年度以降も連携して取組み予定。

4. ドイツ大使館公邸料理人による料理教室（予定）

- ◎12月～1月にドイツ大使館公邸料理人によるドイツ料理教室を検討中（その後学校給食で提供予定）

2020
（大会中）

ドイツ関係者との交流

- ▶震災時に義援金活動に携わったドイツ関係者の方々を本町に招待して交流会の開催
例）
 - ①ウェルカムパーティの開催
 - ②8月11日に開催される「雫石よしゃれ祭り」への出演
 - ③被災地訪問 など

ドイツチームの応援

- ▶パブリックビューイングによるドイツチームの応援

オリンピック・パラリンピアンとの事後交流

- ▶〇〇競技終了後、ドイツの選手団、チーム関係者に本町を訪問してもらい、住民交流会又は地元小中学生と〇〇競技の交流会実施（＝事後交流）

おもてなし

- ▶大会直前までドイツの食や音楽を学び、ドイツ関係者との交流時は町民によるドイツ料理のふるまいや合唱団・演奏家等によるドイツ音楽で『おもてなし』

2020～
（大会後～）

スポーツレガシーの創出

- ▶バートヴィンプフェン市やネッカーズルム市とのさらなる友好関係を構築し、相互交流を継続的に行う。
- ▶町内児童・生徒の国際感覚・障がい者（スポーツ）の理解力が深まるような教育・情報発信の充実につなげる。
- ▶ホストタウンにより得られたノウハウ等を蓄積し、今後の国内外のチームキャンプ招致・受入れに生かす。
- ▶大会を契機としてさらなるスポーツ振興・健康の保持増進につなげる。
- ▶町内スポーツイベントにおいてボランティア文化を継続する。
- ▶将来的には町内から日本代表選手、オリンピック・パラリンピアン輩出を目指す。

